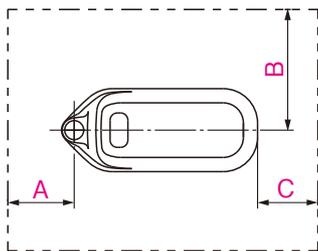


事前施工情報

1. 和風便器標準取付寸法

和風便器の取付寸法は、トイレブースの大きさ、用便動作、給水方式の種類及び配管の施工性を十分考慮してください。また、ロータンク洗浄管のように長さが決まっている場合は、その寸法に応じて決める必要があります。

和風便器（床上給水）



A寸法＝前壁から和風便器給水心までの距離

B寸法＝横壁から和風便器給水心までの距離

C寸法＝後壁から和風便器後端までの距離

(a)フラッシュバルブと和風便器 (単位：mm)

使用上の動作	A	B	C
最小※	185	375	100
標準	220	400	200
余裕	260	500	300

(b)隅付タンクと和風便器 (単位：mm)

使用上の動作	A	B	C
最小※	185	400	100
標準	235	490	200
余裕	285	670	300

※通常の住宅・パブリックトイレにおいては最近の体格を考慮して少なくとも標準以上、なるべく余裕のある寸法以上の空間を確保することをおすすめします。

注：掃除口付和風便器の場合は、掃除口がメンテできる位置に壁などの位置を設定してください。

2. 和風便器の破損防止

和風便器を埋め込む場合は、コンクリートの収縮や床のひずみなどによる陶器の破損防止・破損による漏水防止のため、陶器とコンクリートが接する部分には、必ずアスファルトなどの緩衝材を接着する必要があります。このため当社では、次表のとおりアスファルトシートを接着したもの（アスファルト巻きと呼びます）を出荷していますが、これらは次項の「施工方法」にしたがって施工いただくようお願いします。

アスファルトシート接着部分	対象品番
	C755VU, C756VC

次項の施工方法によらず便器のリム下全部をモルタルで埋め戻す場合は、下図のようにモルタルと接する部分全面にアスファルトシートを接着する必要があります。

緩衝材を接着せず直接陶器をコンクリートに埋め込むと、陶器が破損するおそれがありますので、ご注意ください。

全面埋め戻し	対象品番
	和風便器すべて

3. アスファルト巻きの種類

(1)標準仕様

普通和風便器

…通水路巻き

(2)標準品以外のアスファルト巻き仕様の発注方法

品番	品番末尾		
	通水路巻き	全面巻き	アスファルトなし
C756VC C755VU	—	Z	N

※品番末尾に必要な符号を記入願います。

和風両用便器など対象品番以外のものについては、ご希望に応じて通水路巻きは無料で、**全面巻きは有料で承ります**。アスファルトシートを接着して納入しますのでご指示ください。

施工方法

1. 設置方法

● L型アンクルを使用する場合

和風便器の取付方法は建築によって異なりますが、ここでは防水層のあるコンクリートスラブ内に埋設する場合の方法について説明します。

(1)和風便器を取り付けようとするスラブ位置に、型枠を埋設する。和風便器よりやや小さめの角穴（箱入れ）をあけておく。

床上施工タイプの耐火カバーを使用する場合は、寸法が異なるので、注意のこと。

（箱入寸法の詳細は246・247ページ参照）

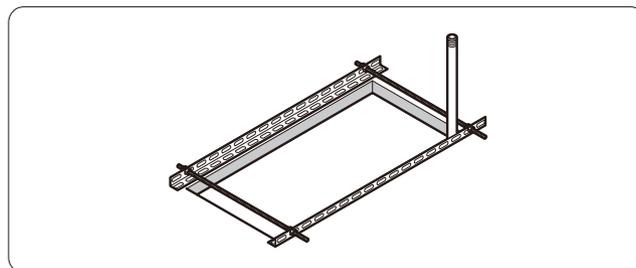
改修の場合は、床のはつりのあと、和風便器を取り付けようとする位置に角穴をあける。

(2)スラブ上に、和風便器のセンター及び給水口センターを墨出しする。事前に組立てられたL型アンクル（現場手配）を取り付ける。

（L型アンクルは、陶器つば（約10mm）に引っかけよう組立てること。）

(3)L型アンクルに陶器を載せ、レベル出しを行う。給排水位置の確認を行い、一旦便器を外す。その際に、塩ビ配管のつば広げや、陶器がフランジタイプの場合は、金属フランジの取り付け段取りをする。

(4)階下から給水管を立ち上げる。



(5)L型アンクルに和風便器を載せ、再度レベル・位置を調整する。

(6)階下に飛び出した便器部分を避けて、階下天井の角穴回りに合板などを取り付ける。（モルタルのたれ受けのため）

階下から、ローリングタワーなどで足場を確保し、作業してください。

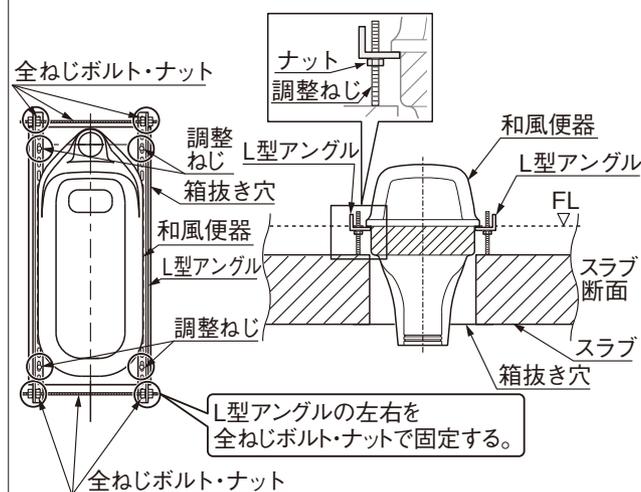
(7)スラブを平坦にならすため、ならしモルタルを打った後、L型アンクルを外す。防水施工の場合は防水層を和風便器のリム下まで巻き上げ、和風便器のアスファルトに密着させる。（漏水防止のため）

※硬化待ちの際も和風便器を木箱などで傷が付かないように養生のこと。

(8)防水層を、押さえモルタルで抑え、シンダーコンクリート打ちをした後、タイルなどで仕上げる。

建築仕様によって防水の方法が異なるので、現場に合わせた施工方法を実施ください。

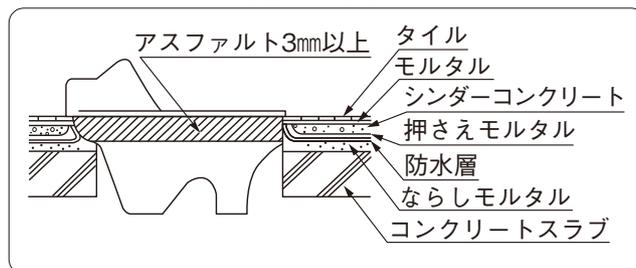
＜耐火カバーを使用しない場合＞
L型アンクルを橋わたして
便器を載せ仮固定する。



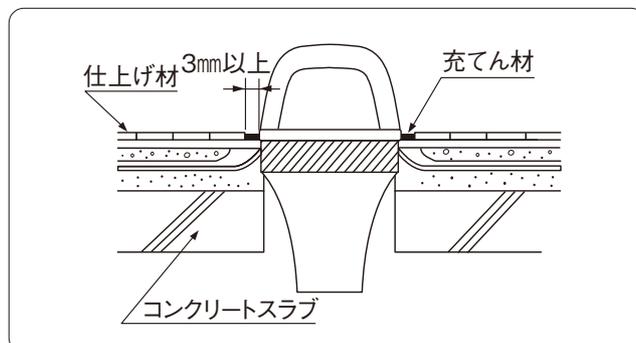
※スラブで埋めた後、L型アンクルを外す。

注：L型アンクルから便器が外れないようにL型アンクルの左右を全ネジボルト・ナットで固定する。

万一外れても落下しないよう二人で作業することが望ましい。



注：底仕上げ面が和風便器のリム下より上にくる場合は、仕上げ材と和風便器が直接、接しないように最低3mmのすき間を設け、弾力のある充填材（シール材）を埋めてください。



※モルタルで埋め戻す際は、階下の天井を合板などで覆い、モルタル硬化後取り外します。

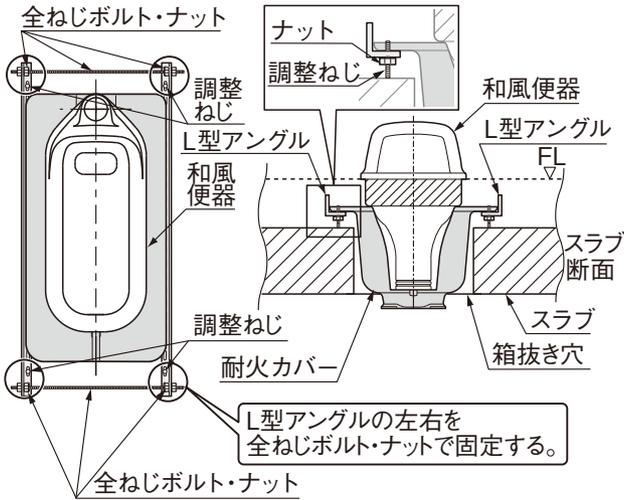
和風便器

トイレ

C

和風便器

＜耐火カバーを使用する場合＞
先に耐火カバーを設置し
L型アングルを橋わたして
便器を載せ仮固定する。

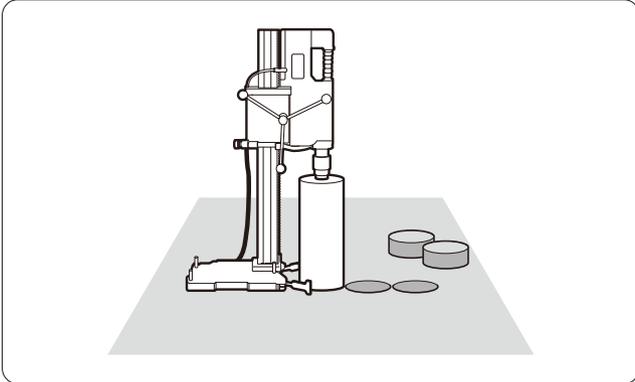


※スラブで埋めた後、L型アングルを外す。

※床上施工タイプの耐火カバーを使用する場合は、246ページ5. 和風便器用耐火カバーにしたがって施工いただくようお願いします。

改修の場合

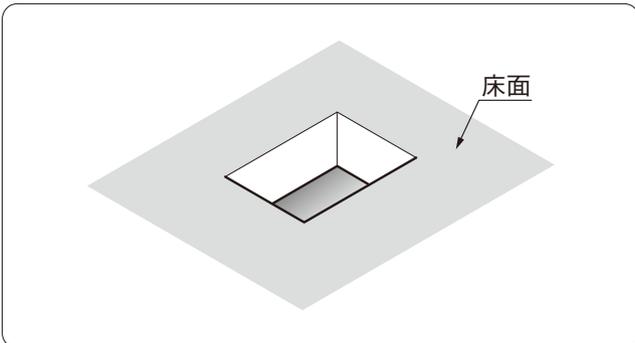
- (1)スラブにコアドリルなどで穴開けを行う。
※配管や電線を避けること。



- (2)穴開け後、はつり寸法に整える。

注：各自治体によってモルタルでの埋め戻しが必要な場合があります。

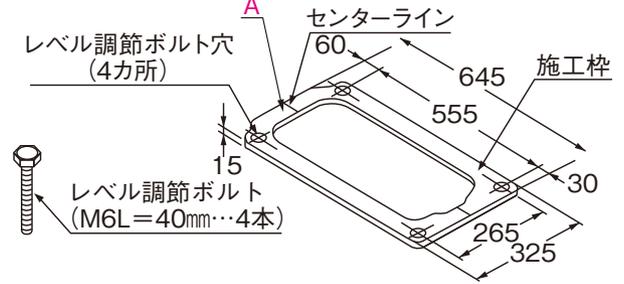
- (3)床のはつった部分に便器を設置する。



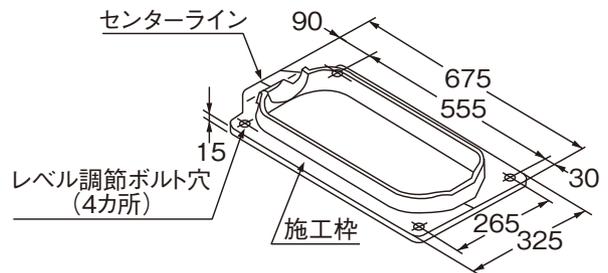
●施工枠を使用する場合

和風便器の据え付けをより簡単にするために、レベル出し、高さ調整が容易にできるGRC（ガラス繊維強化セメント）製の施工枠を用意しています。

HG200 床上給水用



HG201 床下給水・床上給水兼用

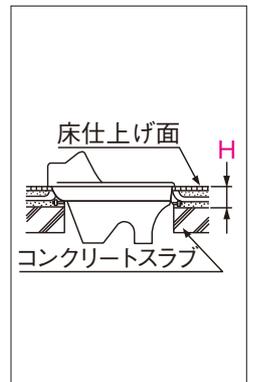


※レベル調節ボルトは、商品に含まれています。

注：据え付ける時は、施工枠にセンターラインが刻んである方を上にして、**200**はA面を、**HG201**は枠に刻んであるセンターラインを和風便器の給水口センターラインに合わせます。

この施工枠が使用できる和風便器の品番とスラブ上、床仕上げ厚み範囲は、次表のとおりです。

施工枠品番	スラブ上、床仕上げ厚み範囲(H)	適用品番
HG200	90~120mm	C755VU C756VC
HG201	125~155mm	C755VU C756VC



2. 排水管接続について

和便排水管接続対応可否表

	直付け
鉛管75	○※1
塩ビ管VU75	○
塩ビ管VP75	×
鉛管100	○※1
塩ビ管VU100	○
塩ビ管VP100	○

鉛管直接接続の場合※1

陶器排水口の溝にPシール（TZ106A）を巻き付け、鉛管を差し込む。

（φ75鉛管の場合は、先端から40～50mm程度膨らませ、排水口に差し込む。）

差し込み後、陶器と鉛管の隙間にシール材で充てんする。

※陶器との接続後は、漏水がないかご確認ください。

※塩ビ排水管との接続の場合は、市販排水接続部材を用いることがあります。施工方法など、詳しくは、市販接続部材の取扱説明をご確認ください。

3. 掃除口付和風便器

●戸建 直付け施工する場合

(1)所定の位置に給排水を立ち上げる。

(2)床仕上げ面より、約220mm下部で排水管をカットする。

現場の床仕上げ代によっては、高さ調整が必要になります。

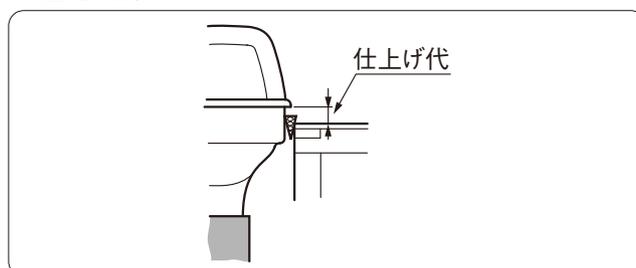


(3)陶器排水口の溝にPシール（TZ106A）を巻き付け、VU管、鉛管を管に差し込む。

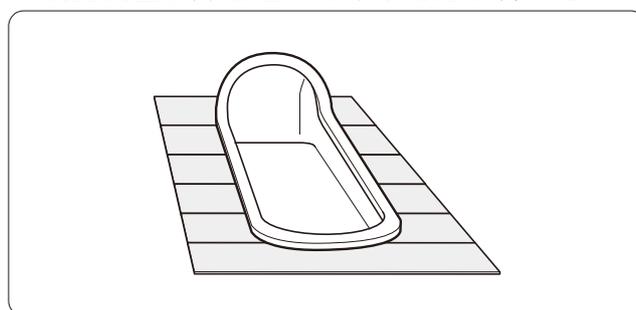
（φ75管の場合は、先端から40～50mm程度膨らませ、排水口に差し込む。）

(4)差し込み後、陶器と鉛管の隙間にシール材で充てんする。

(5)床材と陶器の間にかい物などを用いてレベル出しを行う。



(6)便器設置部分を避けて床板を貼り付ける。



(7)床・壁を仕上げる。

(8)給水を接続する。

和風便器

4. 和風便器用耐火カバー

耐火カバーは、階下に飛び出した便器部分を覆って、階下が火災の場合の熱による便器の破損・脱落を防止し、上階への延焼を抑えるものです。床上給水用便器用（HGS755V）の床上施工タイプと床下施工タイプ（HG755E）で、ガラス繊維強化セメント製です。

アスベストは使用していません。

また、上施工タイプは、和風便器の施工枠も兼用しています。

この耐火カバーは、次項に示す排水管材料を用いて施工する場合、建築基準法に規定される「防火区画貫通部60分遮炎性能」に有効な商品として認められています。

国土交通大臣認定番号

床上施工タイプ	PS 060FL-9426
床下施工タイプ	PS 060FL-0240

使用上の注意

- 耐火カバーと施工枠はGRC（ガラス繊維強化セメント）製のため、落としたり衝撃を与えないでください。
- 雨水に長期間さらされると、強度が低下するため、必ず屋内に保管してください。

● 床上施工耐火カバーのL型アンクルを使用する場合

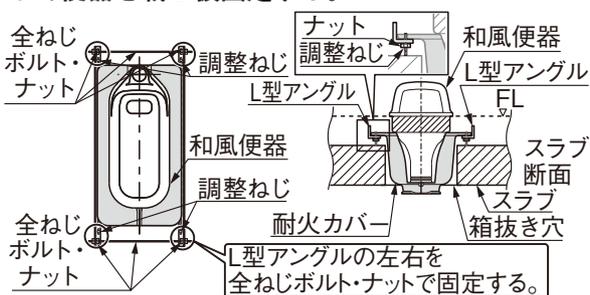
箱入れはつり部に耐火カバーをはめ込み、給排水位置の確認を行い、給水管を立てる。その後、組み立てたL型アンクルを設置する。

L型アンクルに耐火カバーつば部（約50mm）をひっかけ、水平を確認してスラブにならしモルタルを打った後、L型アンクルを外す。

耐火カバー本体に和風便器を載せ仮固定する。

<耐火カバーを使用する場合>

先に耐火カバーを設置しL型アンクルを橋わたして便器を載せ仮固定する。

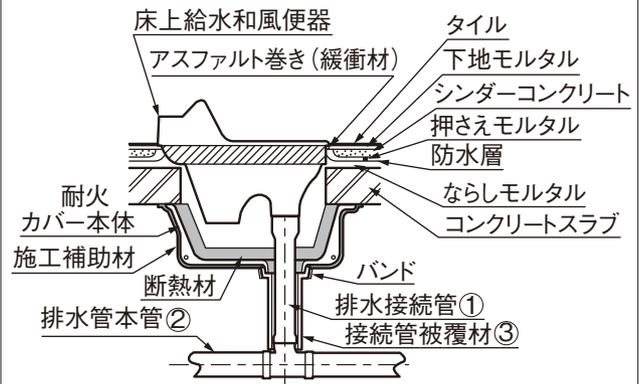


※スラブで埋めた後、L型アンクルを外す。

なお、スラブにあける箱入れ寸法は、次表のように支えブロックや施工枠を使用する場合と異なるため、ご注意ください。

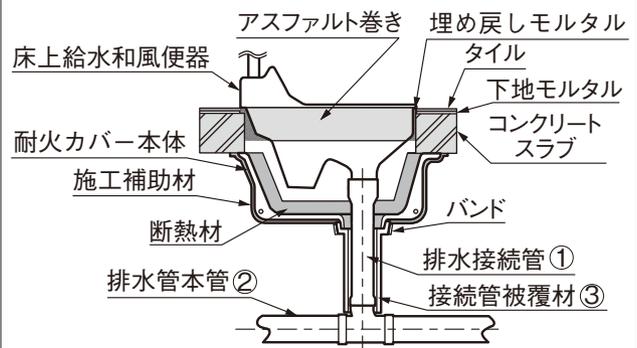
床下施工タイプの箱入れ寸法

図①
【防水層ありの場合】



耐火カバー	適用品番	箱入れ寸法
HG755E	C755VU, C756VC	555×225

【防水層なしの場合】



耐火カバー	適用品番	箱入れ寸法
HG755E	C755VU, C756VC	664×286

床上施工タイプの箱入れ寸法

図②

耐火カバー	適用品番	箱入れ寸法
HGS755V	C755VU, C756VC	615×285

耐火カバーを使用しない場合の箱入れ寸法

適用品番	箱入れ寸法 (防水層ありの場合)	箱入れ寸法 (防水層なしの場合)
C755VU, C756VC	555×225	664×286

※排水配管は、下表の組み合わせで施工してください。(246ページ図①・247ページ図②を参考)

	排水接続管 図中①	排水管本管 図中②	接続管被覆材 図中③
配管例1	硬質塩ビ管	硬質塩ビ管	セラミック ファイバー (厚さ25mm) + 亀甲金網 (φ0.5×10mm目)
配管例2	硬質塩ビ管	二層管	
配管例3	硬質塩ビ管	鋳鉄管	
配管例4	鉛管	鋳鉄管	
配管例5	軟質塩ビ管+ 硬質塩ビ管	硬質塩ビ管	
配管例6	軟質塩ビ管+ 硬質塩ビ管	二層管	
配管例7	軟質塩ビ管+ 硬質塩ビ管	鋳鉄管	
※配管例8	ゴム製接続管 +硬質塩ビ管	硬質塩ビ管	
※配管例9	ゴム製接続管 +硬質塩ビ管	二層管	
※配管例10	ゴム製接続管 +硬質塩ビ管	鋳鉄管	
※配管例11	ゴム製接続管	鋳鉄管	
配管例12	二層管	硬質塩ビ管	
配管例13	二層管	二層管	
配管例14	二層管	鋳鉄管	

※配管例はフランジ式和風便器には採用できません。

和風便器

トイ
レ

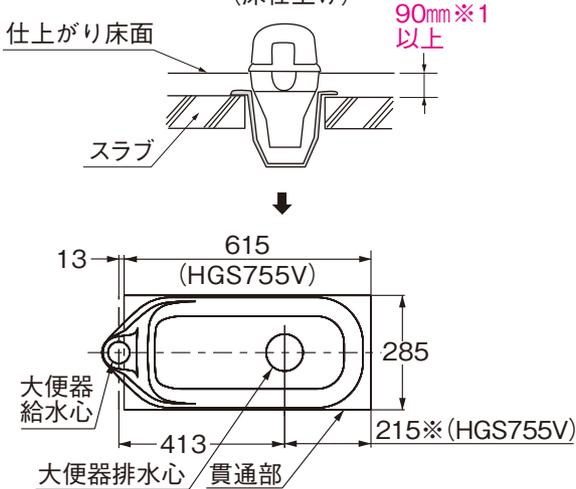
● 床上施工耐火カバー-HGS755Vの場合

1. この耐火カバーを使用できる和風便器は次の品番です。

耐火カバー品番	和風便器品番
HGS755V	C755VU, C756VC

2. 床仕上げ厚み寸法・箱入れ寸法は次の寸法とすること。

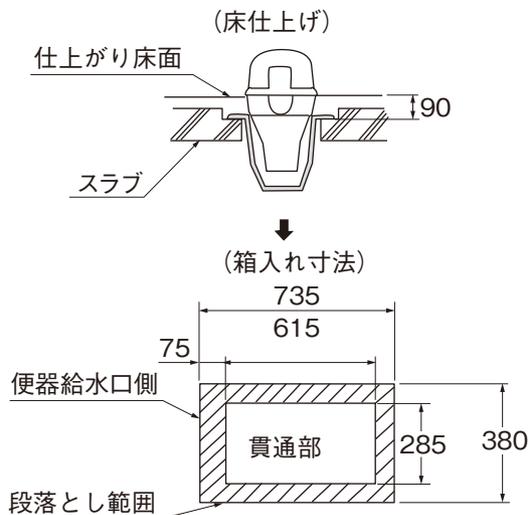
・床仕上げ厚み寸法は90mm以上必要です。
(床仕上げ)



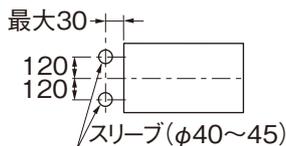
※耐火カバーなしの場合：185

上図は箱入れ寸法と和風便器の位置関係を示しています。

※1 アスファルト巻部高さ70mm、耐火カバーのフチの厚み15mm、5mmの余裕をみています。
・床仕上げ厚み寸法が90mm未満の場合は下図のようにスラブを段落とした箱入れ形状にする。



・給水管がスラブ貫通し、床面より立ち上がる場合は下記寸法にスリーブ入れ(穴あけ)をする。



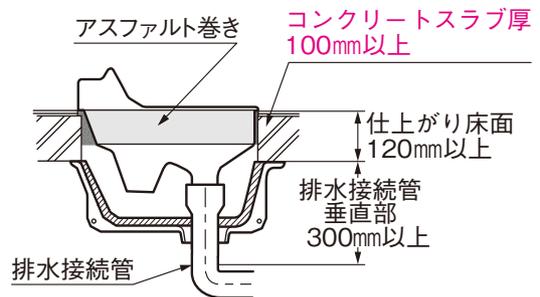
● 床下施工耐火カバー-HG755Eの場合

1. この耐火カバーは、和風便器及び給排水管の取り付け完了後にスラブ下面より取り付けるタイプです。施工枠の機能は有していないため、施工枠などの準備をお願いします。
2. この耐火カバーに使用できる和風便器は次の品番です。

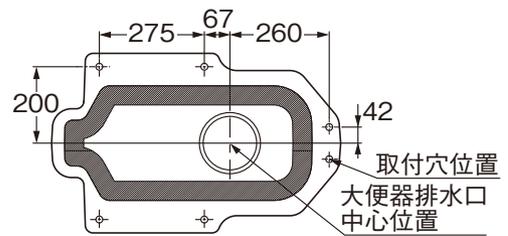
耐火カバー品番	和風便器品番
HG755E	C755VU C756VC

3. 排水接続管の取り付け

排水接続管はコンクリートスラブ下面より最低300mmは、垂直に立ち上げてください。垂直でないと耐火カバーの取り付けができません。



[HG755E]



C

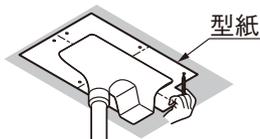
和風便器

施工要領

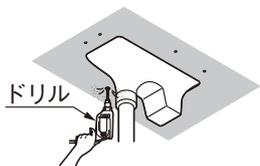
この耐火カバーを、取り付けされる前に和風便器及び給排水接続管の取り付け、通水検査を行ってください。

1. アンカーボルトの下穴あけ

①和風便器の排水口を中心に墨出しをして、同梱されている型紙をコンクリートスラブ下面側から中心線を基準に合わせて、下穴位置を墨出しする。



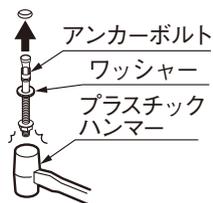
②耐火カバーの取付穴と墨出し位置を現物確認後、コンクリートスラブ下面側からドリルなどで穴あけを行い、下穴内部を集塵機などで切粉を除去する。



注：下穴径：6.0mm、
深さ45mm
下穴径を間違えると取り付けられません。

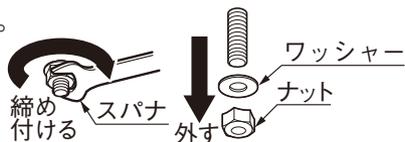
2. アンカーボルトの取り付け

①ワッシャーとナットがセットされた状態のアンカーボルトを、下穴にプラスチックハンマーなどで軽く打ち込む。



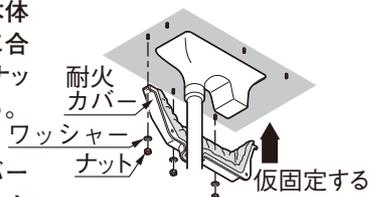
②ナットを締め付け、アンカーボルトを固定する。
※強く締め過ぎると割れるおそれがあります。
約5N・mで締め付けてください。

③固定確認後、ナットとワッシャーを外す。

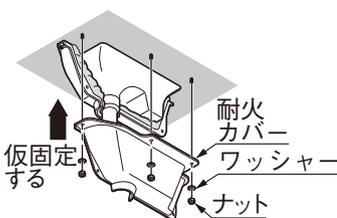


3. 耐火カバーの取り付け

①片側の耐火カバー本体をアンカーボルトに合わせて、ワッシャーとナットにて仮固定をする。

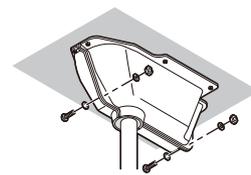


②もう片方の耐火カバー本体は、左右の耐火カバーのすき間が最小になるようにアンカーボルトのナットをゆるめて調節し、貼り付けてある断熱材をはみ出さないように合わせて、ワッシャーとナットで仮固定する。



③すべてのナットを均一にスパナなどで締め付ける。

注：インパクトレンチでのナットの締め付けは商品を破損させるおそれがあるため、使用しないでください。

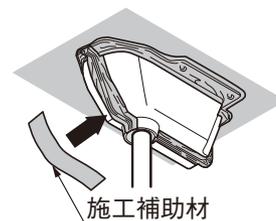


4. 施工補助材の貼り付け

取付面、左右の合わせり面などに施工補助材を適当な大きさに切り、すき間に貼り付けて目張りをする。

※すき間が広い場合は埋めモルタルや耐火パテなどであらかじめすき間を埋めてから施工補助材を貼ってください。

施工補助材だけでは十分な耐火性能が得られない場合があります。



⚠ 注意

- ・穴埋用施工補助材はアルミ箔が貼ってあります。アルミ箔の端は非常に鋭く手などを切るおそれがあります。ご注意ください。
- ・穴埋用施工補助材を貼る前にコンクリートスラブ面の湿気や汚れを取り払ってください。
- ・耐火カバーの湿気や汚れも取り払ってください。
- ・目にごみなどが入らないように注意してください。

安全上の注意

⚠ 注意

● 空気の混入が考えられる給水配管には空気抜き弁を取り付けるなど、必ず空気が管内に残らないようにしてください。特に新築・改修工事後や水道断水復旧後は、確実に空気抜き弁や掃除用流し水栓などから給水配管内の空気を抜いてから、フラッシュバルブを作動させるようにしてください。大量の空気と水が混入して器具に供給されると器具の破損や故障の原因となり、けがをしたり、漏水のため、家財に損害を与えるおそれがあります。